

平成23年度 東京都立工芸高等学校経営報告（全日制）

1 今年度の取組と自己評価（達成度100点満点）

本校は100年の伝統のもと、日本の工業・工芸・デザイン教育をリードし、専門高校の可能性を拓くモデル校を目指している。各種コンクール受賞を果たす高い専門技能の習得はもとより、大学進学実績も伸ばし、山岳部がインターハイ出場を果たすなど多岐に渡る生徒の活躍は目覚ましいものがあった。また、工芸祭（文化祭）には5000名を越える見学者が来校し、保護者会・授業参観、OBに聞く会、ものづくり体験教室等に年間1万2千名を超える来校者があり、都民に開かれた学校となっている。

(1) 教育活動の取組と自己評価

① 学習指導への満足 (80点)

進路が就職から美術工芸系大学等の進学を希望する生徒・保護者の要望に応えるため、基礎的・基本的な学力の充実と個々の生徒に対応できる幅広い選択科目の設置を盛り込んだ教育課程を展開した。更に、長期休業日中における、補習・補講講座や進学対策講座等を開講して、個に応じた指導の充実に努めた。その結果、授業満足度が76%（昨年度77%）と高い水準を保った。

② 進路指導への満足 (90点)

キャリア教育の全体計画に基づき、年度末の春季休業中に第2学年でインターンシップ（2日～3日間・26社・45名）を実施する。デッサン・プレゼン講習会の実施、保護者向けの進路講演会、就職講座、各教科の補習・補講講座等に加え進学対策講座の充実を図り、多様化する進路希望に対応するための長期休業日中の講座を46講座開講（昨年度58講座）して、受講者は1253名（昨年度1205名）。進路指導満足度は、71%（昨年度72%）と高評価を維持することができた。また、土曜講習を開講し、前期57名、後期99名（昨年度前期87名 校期142名）の参加を得ている。4年制大学の主な進学先は下記のとおりである。

東京藝術大学、東京学芸大学、首都大学東京、多摩美術大学、武蔵野美術大学、日本大学、東京造形大学、女子美術大学、東京工芸大学、東京電機大学、千葉工業大学、明治大学、法政大学、立教大学、東京理科大学、青山学院大学、玉川大学、京都造形芸術大学、ものづくり大学、東京家政大学、東京家政学院大学、宝塚大学、東北芸術工科大学、東洋大学、目白大学、工学院大学、成蹊大学、東京工科大学、東京成徳大学、デジタルハリウッド大学、東京都市大学、文化学園大学、他

③ 生活指導への満足 (80点)

HR活動や生徒集会をととして基本的な生活習慣の確立に向け指導の充実に努めた。また、セーフティー教室等を実施し、日常生活の安全に対する意識の向上に努めた。更に、担任と保護者との連絡を密にして、遅刻や欠席の多い生徒の指導に留意した。生活指導に対する満足度は60%（昨年度68%）と少々ポイントを落としたものの、保護者の満足度は74%（昨年度80%）と高く一定の評価が得られていると判断できる。

④ 特別活動への満足 (95点)

生徒の工芸祭や体育祭等の特別活動への取組は非常に活発で、学校組織及び教職員の対応も充実しており、これらの取り組みの成果は外部からも高い評価を得ている。その結果、職員、生徒・保護者の満足度94%と例年のごとく非常に高い。生徒の自主性や創意・工夫を取り入れる指導をしている。また、各種コンクール等への参加も積極的に取り組み、実績もあげている。各種コンクールの主な結果は以下のとおりである。

アートクラブト科

- ・明るい選挙啓発ポスターコンクール 最優秀賞1名
- ・アマダ優秀板金製品技能フェア 銅賞・審査員等別賞
- ・ヒコみづのジュエリーカレッジデザインコンテスト ストーンマーケット賞

インテリア科

- ・高校生ものデザインコンテスト(デザイン部門)(クラフト部門)最優秀賞1名・優良賞、他11名
- ・丹波の森ウッドクラフト展 ジュニアの部 準グランプリ1名・他1名
- ・東京都建設系高校生作品コンペティション (家具部門) 最優秀賞・審査員特別賞
(ホース部門) 最優秀賞・特別賞
(建設模型部門) 審査員特別賞・CCI 東京特別賞・佳作
(製図部門) 最優秀賞・優秀賞
- ・若年者ものづくり競技全国大会 木材加工職種 3位
- ・高校生の建築フレッシュアイデアコンペ 最優秀賞
- ・高等学校インテリア科デザインコンテスト 優秀賞

グラフィックアーツ科

- ・道のある風景写真コンクール 銅賞1名 努力賞2名
- ・文京区シビックセンター展望ラウンジパノラマ写真 区長感謝状
- ・川の写真コンクール 特別賞1名 努力賞4名
- ・全国高等学校総合体育大会シンボルマーク 佳作1名
- ・未成年者禁煙防止ポスター 最優秀賞1名 優秀賞2名
- ・未成年者飲酒防止ポスター 最優秀賞1名 優秀賞1名 佳作2名
- ・東京都教育の日 標語部門 最優秀賞1名 優首賞1名
- ・デジタルアートグランプリ 静止画像部門 入選
- ・全国着物デザインコンクール 京都市長賞1名 他8名

デザイン科

- ・産業教育振興中央会「翔」表紙に採用2名
- ・「文京区社会を明るくする運動」イラスト イラスト採用
- ・「都立高校に入学を希望する皆様へ」表紙 イラスト採用
- ・川崎産業デザインコンペ2011 優秀賞・アイデア賞・入賞 以上各1名
奨励賞 2名
- ・オレンジカップ2011 アイデアのたねコンテスト 大賞1名・他1名
- ・明るい選挙啓発ポスターコンクール 優秀賞5名
- ・日本書道美術院 全国競書大会 全日本書道連盟賞

また、資格取得も活性化し、マシクラフト科では始業前授業等で取得者も倍増した。

マシクラフト科

- ・危険物取扱者乙類 29名
- ・2級ボイラー技士 10名
- ・計算技術検定1級 4名
- ・基礎製図検定 26名
- ・ジュニアマイスター ゴールド 6名
シルバー 8名

⑤ 健康づくり (60点)

専門医派遣事業の指定を受け、精神科医をアドバイザー迎えた校内研修（事例検討会）及び一学年生徒を対象とした思春期のメンタルヘルス講演会を実施した。カウンセリング等の必要な生徒の支援を行う相談体制の整備は進んでいない面があるが、個々の状況に応じてスクールカウンセラー・教育相談センター等の活用が進んだ。さらに、組織化された体制の構築が急務である。

⑥ 募集・広報活動 (80点)

本校の特色ある専門学科と競合する総合芸術高校学校が開校したことから、4年前より募集対策を最優先重点課題として取り組んだ。都内公立中学校を対象とした出前授業や体験学習、学校説明会・授業公開、個別相談会等従来の取り組みに加え、3年目の小中学生対象の夏休みワークショップ、創造ものづくりフェアなどを活用した宣伝活動を実施。また、生徒による学校説明会の実施、更には懸垂幕の積極的活用など積極的な広報活動を展開した。しかし、こうした対策にもかかわらず今年度は応募倍率を下げた。今後も本校を取り巻く環境は厳しい状況にある。

⑦ 学校経営組織体制 (70点)

現主幹の育成と人材の掘り起こしを継続的にすすめている。管理職選考や主幹選考の受験者を輩出し意識の向上や主幹を中心とした組織づくりをおこなっている。その結果、5人体制の主幹のうち1名が平成23年度管理職候補合格者となった。重点課題とした募集対策において、募集対策を専門に行う分掌として設置した総務部の活動は3年目で軌道に乗せることができた。

(2) 重点目標への取組と自己評価 (達成度 100点満点)

① 補習・補講対策 (85点)

長期休業日等の補習・補講講座の進学対策の充実を図るため、長期休業日中の講座を46講座開講(昨年度58講座)開設した。

② 7時間目の自由選択講座、進学・検定対策 (70点)

7時間目の自由選択講座及び進学対策講座(補習講座と一部重複)20講座開設(昨年度20講座)。

③ 5つの満足 平均78% (昨年度平均79%)

i 授業満足度 76% (昨年度77%)

生徒による授業評価等を反映した改善・工夫を行い、多様な進路希望に沿った学習指導を展開した。

ii 進路指導への満足度 71% (昨年度72%)

キャリア教育の全体計画にもとづきながら、家庭と連携した進路指導を推進し、進路ガイダンスにはのべ161名の保護者が参加した。

iii 生活指導への満足度 60% (昨年度68%)

担任の連携を強化し、相談体制の充実を図った。

iv 特別活動 94% (昨年度90%)

v 学校生活 89% (昨年度89%)

5つの満足度では、ほぼ全ての項目で昨年並みの高いレベルで維持することができた。生活指導への満足度を8ポイント落としているのは、生徒側からすれば服装・頭髪指導の強化などが影響しているのかもしれない。次年度以降も生徒の変化を踏まえた取り組みについて引き続き検討が必要である。

④ 学校説明会・学校見学会 (90点)

学校説明会・学校見学会の参加者は2906名(昨年度2790名)で昨年度を上回った。

⑤ 企業・大学との連携 (75点)

企業等の学校説明会・授業公開における本校来校者数 大学10名・企業 4名（昨年度9名）。

⑥ 中学校への出前授業 (60点)

中学校出前授業5校（昨年度10校）で実施した（出前依頼は10校）。

⑦ 中学校訪問 (80点)

教員による訪問を203校（昨年度18校）で、昨年度を大きく上回る規模で実施することができた。また、生徒による母校訪問を138名で実施（昨年度125名）。

⑧ 求人企業の拡大 (70点)

求人企業数172社（昨年度152社）。

⑨ プレゼン講習会・デッサン講習会等 (90点)

プレゼンテーション講習会1回24名（昨年度1回19名）、デッサン講習会2回（前・後期）83名（昨年度2回82名）、ポートフォリオ講習会1回（昨年度1回）253名（昨年度270名）を実施し、のべ360名の生徒が参加した。

⑩ 地域行事への参加 (80点)

湯島天神梅まつり、千代田区児童館「いずみ子どもプラザ」、文京区選挙管理委員会・ボランティアセンター、真砂市場等への参加及び作品提供を通じ地域行事への参加を行った。また、昨年度に続き中学校創造ものづくりフェアを本校で開催した。

⑪ 入試応募倍率の確保 (80点)

推薦3, 5倍、一次入試1, 4倍（昨年度推薦4.03、一次1.5）で目標値（推薦3.5、一次1.5）をほぼ達成した。

2 次年度以降の課題と対応策

① 学習指導では、多様化した生徒一人一人のニーズに的確に応えられるカリキュラムの工夫と、授業力の向上をさらに進める。

- ・進学を希望する生徒への普通科授業を充実させるため、放課後や土曜日、長期休業日を活用した補習・補講を計画的に展開するとともに、大手進学予備校との提携事業である土曜講習を効果的に運営する。
- ・就職や進学などに対応するため、専門科目の授業を一層充実させる。
- ・生徒一人一人の多様な進路実現支援を目指して、必修選択や自由選択、横断的な選択講座の設置など、カリキュラムを改善する。

② 進路指導では、キャリア教育の全体計画に基づく、3年間の系統的な指導の充実を図る。

- ・インターンシップを拡充する（協力企業の開拓と就職希望者の全員参加）
- ・進路指導部とホームルームとの連携による進路ガイダンスなどを計画的・効果的に実施する。
- ・進路情報は進学へとシフトしていることを踏まえ、的確な情報を生徒・保護者に伝えるため、引き続き「進路の手引き」等の更新を行う。

③ 生活指導では「心の相談体制」の充実を図る。

- ・スクールカウンセラー配置を受け、校内における「相談体制」を構築するとともに、教育相談センターや健康推進課による専門医派遣事業等の外部機関と連携を図りきめ細やかな指導を展開する。

④ 募集・広報活動は、総務部を中心に活動の精選と安定的な取り組みを推進する。

- ・今年度の課題を整理分析し次年度以降の活動計画を立案するとともに、学科改編等も含めた抜本的な見直しも検討する。また、デザイン・芸術系の都立学校との連携を進め、共同した広報活動の検討と実践を試みる。

⑤ 学校経営組織体制では、分掌の見直しに伴う業務分担の適正な評価と合理的な運営に務めるとともに、総務部を中心とした募集対策の精選を図り、新学習指導要領導入を踏まえた、中長期のビジョ

ンを検討する将来構想プロジェクト委員会や教育課程委員会などの委員会が連携をしながら、将来設計をする。

- ・分掌活動計画を立て、具体的な活動内容と課題に効果的に取り組む。また、科の独自性を保ちつつ、学校全体の統一的対応が可能な各分掌でのマニュアル作りを進める。
- ・新学習指導要領に基づく教育課程の作成を進める中で、本校の教育ビジョンを検討し、具体的なプランを構築する。

以上